

AMDA

多様性の共存

ジャーナル

2014年1月25日 VOL.37 第268号 定価550円
 発行/AMDA 〒700-0013 岡山市北区伊福町3-31-1
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717
 E-mail:member@amda.or.jp
 郵便振替:01250-2-40709 口座名:特定非営利活動法人アムダ

2014年
冬号

冬

救える命があればどこへでも

国際医療貢献フォーラム

2013年12月14日、AMDAは、岡山県と共催で「国際医療貢献フォーラム」を会開催しました。自治体、大学、医療機関、NPO/NGO、企業の5つの部門に分かれ、それぞれの立場から各団体が取り組んでいる国際貢献事業や人材育成事業などについての取り組みが発表されました。いずれの報告からも、次世代を担う人材育成が今後の国際医療貢献を考える上での大きなテーマになることを再認識した大盛況の会となりました。



認定 特定非営利活動法人アムダ (AMDA)
<http://amda.or.jp/>
 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
<http://www.amda-minds.org/>
 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター
<http://amda-imic.com/>

新春の挨拶を申し上げます

AMDA グループ代表 菅波 茂

AMDA グループは1984年に設立、本年で30年を迎えます。AMDAグループとして、30年間の活動の実績を基盤とした「世界平和パートナーシップ構想」の実現が次の5年間の目標です。1)平和構築、2)生活向上、3)教育、4)健康の4分野についてAMDAグループを中心に国連、政府、自治体、大学、企業、公益団体、NGO/NPOとのネットワークの拡充です。例えば、平和構築に関しては難民や災害被災者救援を目的とした「アジア相互扶助緊急救援ネットワーク」を昨年4月に発足させました。昨年11月に発生したフィリピン台風30号被災者救援活動では、このネットワーク参加メンバーの相互協力により、多くの被災者を助けることができました。本年の3月8日にはフィリピン台風30号復興支援国際会議をマニラで、4月には国内にて開催予定です。

上記の4分野の活動の更なる推進のために東南アジア、南西アジア、中央アジアそしてイスラム社会におけるネットワークとプロジェクト強化のために4月からマレーシアの首都クアラルンプールにAMDA地域統括事務所を正式に開設予定です。

次世代のグローバル人材育成。「救える命があればどこまでも」のスローガンのもとに形成された人脈と集積された智慧を還元できればと考えています。教育で学ぶ知識は経験によって智慧に昇華します。AMDAは豊富な経験の場を提供することができます。今までAMDAの活動を支えていただいたことに対する感謝の表現です。東日本大震災復興支援活動第一次3ヶ年計画も順調に実施されています。引き続き、第二次東日本大震災復興支援計画も予定しています。それと同時に、南海トラフに対応したネットワーク形成も確実に

進めています。

憂いなければ備えなしです。東日本大震災の被災者の方々が南海トラフの時には必ず助けに行きますと。有りがたい言葉です。

なお、私自身はAMDA地域統括事務所の立ち上げのために3年間ほどクアラルンプールを中心として活動します。成澤貴子理事・事務局長が昨年11月より認定特定非営利活動法人アムダの新理事長として岡山本部を中心として統括しています。「世界平和パートナーシップ構想」と新しい人事体制にご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



写真左から 菅波代表、成澤理事長

就任の挨拶を申し上げます

認定特定非営利活動法人アムダ:AMDA 理事長 成澤 貴子

11月1日付で、菅波理事長の後任として理事長に就任いたしました。現在のAMDAがあるのは、岡山県内外の多くの御支援者、そして1000人を超える国内外の派遣者の、温かい善意と汗があってこそと感謝しております。2006年に国連経済社会理事会から総合協議資格を世界で137番目、日本のNPO法人で初めて得ることができました。この資格を申請するための実

務や国連での審査対応は大きな努力を要するものですが、私たちは偶々本部の職員として在籍したものであって、これまで関わってくださった内外の多くの方々の温かいお気持ちと努力の結晶とっております。

この貴重な「国連総合協議資格」を、困難な状況にある人々の喜びに資する活動、ひいては平和に資する提言を発信していく場として活用する責務を

もったと考えます。

容易でない時代を支えることになる若い世代に、力強く生きる力を養う実践教育の場として、国内外のプロジェクトサイトを活用していただくことが、創立30年を迎えるAMDAの果たす役割の柱の一つと考えております。各分野の諸先輩、ご支援者皆様のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

志津川病院ボランティア医療スタッフ派遣

被災地医療機関支援として、AMDAでは宮城県南三陸町の公立志津川病院および南三陸診療所に対して、春季、夏季、冬季の地元医療スタッフが長期休暇を取る時期に、スタッフの方々の負担を軽減すべく、2011年から医療ボランティアを派遣しています。

今回は、3年目の冬季派遣として、12月23日から1月6日までの期間に、医師3名、看護師2名の計5名を派遣しました。

【冬季医療派遣者プロフィール】

- 今井 聡子 (いまい さとこ) : 看護師/大阪府在住 (12 / 23 ~ 12 / 29)
- 吉廣 優子 (よしひろ ゆうこ) : 医師/埼玉県在住 (12 / 26 ~ 12 / 30)
- 山河 城春 (やまかわ しろはる) : 看護師/埼玉県在住 (12 / 28 ~ 1 / 5)
- 菅波 茂 (すがなみ しげる) : 医師/クアラルンプール在住 (12 / 31 ~ 1 / 2)
- 森下 克也 (もりした かつや) : 医師/東京都在住 (1 / 1 ~ 1 / 4)



公立志津川病院にて職員の方々と一緒に写真前左から森下医師、菅波医師

音楽家の方々によるチャリティーコンサートを開催

AMDAの活動をご支援くださっている音楽家の方々が、音楽を通じた支援として被災地を訪れ、被災地の方々のためにチャリティーコンサート実施してくださいました。

久保陽子と岡山の仲間たち in 雄勝&牡鹿



雄勝町で行われたチャリティーコンサートの様子

2013年9月22日から24日の期間に、ヴァイオリニストの久保陽子氏を筆頭にソプラノ歌手の佐々木英代氏、ピアニストの荒木渉氏、メゾソプラノ歌手の平田八千代氏、チェリストの三船文彰氏が宮城県石巻市雄勝町、牡鹿を訪れクラシックの名曲を演奏してくださいました。演奏会の会場となったのは「特別養護老人ホーム 雄心苑」「特別養護老人ホームおしか清心苑」「オーリンクハウス」「大須老人憩いの家」。

雄勝町内だけでなく、石巻中心部からも御来場していただき、多くの方々が、心温まる素晴らしい音楽に涙していました。

「最高の音楽を雄勝で聴けて感激!!」「73年間生きてきた中で、一番幸せな日だった」「夢のような時間でした」など来られた方皆さんからコメントを

頂きました。

いずれも、20名~30名の小さな演奏会ばかりでしたが、地元の方々と心の通じ合う演奏会になりました。

声楽・バイオリン・ピアノによる演奏会 in 大槌・釜石

2013年10月4日から6日の期間に、声楽家の中谷和子氏、ヴァイオリニストの入江祥文氏、ピアニストの西牧尚子氏によるファミリーコンサートが岩手県大槌町、岩手県釜石市で開催されました。

岡山から岩手へ心を音にのせてというメッセージとともに岩手県立釜石病院、特別養護老人ホーム「らふたあヒルズ」、カトリック釜石教会を会場に開催しました。

クラシックの名曲だけでなく童謡なども演奏され、重症の方が多施設でも、皆さん歌を口ずさんだり、体を動かしてリズムをとるなど、生演奏の迫力を堪能されていました。中には歌いながら涙ぐむ方もいらっしゃいました。

来場者の方からは「ふるさとを歌っていて両親を思い出しました」「認知症の患者さんたちも普段はぼんやりしているのに、今日は目がキラキラしていま

AMDA 大槌健康サポートセンター

センター主催の養成講座で講師となった方々によるフライパンとポリ袋で作る天然酵母パン教室は大人気です。また、子育て中のママさん、妊婦さんなどを対象とした「まんまるサロン」を岩手県助産師会主催で12月から月に1回のペースで開催しています。ほかにも、ママヨガやボクササイズなど笑顔の集う教室が盛りだくさん。町の方々の心身の健康サポートを担う施設として運用されています。



仮設住宅の談話室で行った出張パン教室は満員

現在AMDA大槌健康サポートセンターは仮事務所としてアパートの一室で運営しています。2014年度中の新施設の完成を目指して、現在設計中です。新施設建設にむけて、皆様のご協力をお願いいたします。

振込口座

ゆうちょ銀行 01250-2-40709
「特定非営利活動法人アムダ」



大槌町で行われたチャリティーコンサートの様子

した」などの感想を頂きました。

また演奏家の方々からは「参加者の方も楽しんでくださって、とてもいい演奏会になりました。」「皆様にこんなに喜んでいただけよかったです。」等のコメントを頂きました。

普段言葉には出せない感情を表現する手段として音楽は欠かせないと改めて感じる会となりました。

なお、入江・西牧夫妻は2001年のアフガニスタン難民支援以来、チャリティーコンサートを続けておられ、今年11月24日にはオルガホールでチャリティーコンサートを開催され、収益をAMDA東日本復興支援にご寄付くださいました。

フライパンでつくる天然酵母パン教室 講師養成講座 in 雄勝 修了

9月5日から11月29日までの間、全12回の日程で、宮城県石巻市雄勝町のオーリンクハウスを会場に、雄勝町公民館主催で「フライパンでつくる天然酵母パン教室 講師養成講座」が開催され、8人が受講し、修了を迎えました。最終日には実技試験として、イングリッシュマフィンとピザを焼きました。受講生の方からは、「この講義に参加してとてもよかった、自分の生活が少し変わりました」「講師をやってみたい」「地元でこんなに素敵なパン教室に通えるなんて夢のようでした。地元に残って頑張っている方とも交流するこ



自分の作品を手に、参加者のみなさん

とができてうれしかったです。」「震災後、公園に仮設住宅が建ち、子どもたちが遊ぶ場所がなくなった石巻で、親子でできるパン教室を開きたい。この講座で世代を超えて一緒に学べたことがうれしかった。」など、参加できたことへ

の感謝とパン作りで得た喜びを話してくださいました。

本講座は、AMDA 大槌健康サポートセンターでも開催され、すでに卒業生の方が講師として活躍されています。そこで、「大槌の方たちともパン作りを通して交流したい」などの意見も出て、被災地間がつながっていく可能性も見えてきた講座となりました。

講師としてご協力くださった梶晶子先生も「大槌、雄勝での講座を通じて、パン作りが与えてくれる可能性を改めて教えてもらいました。」とお話してくださいました。

AMDA 東日本大震災 国際奨学金 奨学生からの手紙

東日本大震災で被災した地域の将来医療従事者をを目指す学生を対象に奨学金の支給を「AMDA 東日本大震災国際奨学金」として、2011年度から実施しています。

対象校は、岩手県立釜石高等学校、岩手県立釜石商工高等学校、岩手県立大槌高等学校、岩手県立大船渡高等学校、宮城県立志津川高等学校、宮城県気仙沼高等学校、仙台医歯専門学校、

東北朝鮮初中級学校の8校とし、各学校長の推薦を受けて選定された学生を対象に月額15,000円(年額180,000円)の支給を行っています。これまでに3年間でのべ253人が受給しました。未だに支援が必要な学生もいることから、2014年以降も奨学金の支給を予定しております。引き続き、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。以下に奨学生からの手紙を紹介します。

「小児科医」という夢に向かって
宮城県立気仙沼高等学校 1年 女子

私は小児科医を目指しています。その動機は、東日本大震災を目の当たりにし、命の尊さに直面したからです。あの恐ろしさの最中、まず心配したのが家族の安否です。「4つになる弟はどんな思いをしているのか?」いろいろな思いを巡らしても、全く情報が入ってこない状態でした。後で叔母だけが津波にのまれ、帰らぬ人となってしまったことを知りました。

津波は誰かれかまわず多くの命を奪いました。その後、弟は「津波ごっこ」と称し、「津波がきたあ。逃げろー。」と遊ぶようになりました。しばらくするとなくなりましたが、幼い子供がこんな遊びをすることに対し、違和感を感じたことが、いまだに印象に残っています。そのとき、弟だけではなく、幼い子どもたちを医学的にも精神的にも守っていきたいと思いました。そのためには、勉強を頑張りたいと思っています。小児科は、外科や内科のようにいろいろな分野に分かれておらず、総合的な能力が必要であると、調べていて分かりました。部活動があり、帰宅時間が遅い毎日ですが、時間を有効に使い計画的に学習を進めていきたいと思っています。また、子どもの気持ちが分かる

医師になりたいです。心理的なこともしっかり学び、信頼される医師を目指します。これは決して簡単なことではありません。でも、諦めず、これから生きていく小さな命を守り、明るい希望に満ちた子どもたちに成長させることができるよう、一生懸命努力し、頑張りたいと思います。

「看護師を目指して」

宮城県立志津川高等学校 3年 女子

私の将来の夢は、看護師になることです。きっかけは、東日本大震災の時の医師や看護師が、一生懸命治療やサポートをしている姿を見て、とても憧れをもったからです。また、人を笑顔にできる仕事だとも思いました。そして、多くの国から医療の支援をいただき、とても救われました。私は、本当に嬉しく感じ、将来は日本だけでなく、外国でも看護師として働きたいと考えています。そして、多くの人を笑顔にして、少しでも恩返しができればと思いました。

そのために、より多くの知識を得る必要があると考え、大学進学を目指しています。しかし、私の家は震災で母の職業が変わり、以前より家計が苦しくなりました。大学へ進学するには、かなりの費用が必要となるため、無事に卒業して看

護師になれるか不安な状態です。進学し卒業できたら、患者さんの支えとなれるような看護師に、必ずなることを約束いたします。

「理学療法士になること」

宮城県立志津川高等学校 1年 女子

理学療法士になること。これは小学四年生の時からの夢です。テレビを見ていてこの職業を知りました。患者さんが笑顔になってくれると嬉しいと言っていました。それから私はこの夢を持ち始めました。私は、人を助け笑顔になってもらう事が好きで、この仕事も人を笑顔にすることができると思います。私は理学療法士になりたいと思いました。ただ理学療法士になるだけではなく、南三陸町にある病院で働くというのが夢です。私は南三陸町民のキラキラした笑顔が大好きです。この仕事を通してもっと南三陸町の人のキラキラした笑顔を見られたらいいなと思っています。一人でも多くの患者さんに笑顔になってもらえるような立派な理学療法士になりたいと思っています。

AMDA 東日本国際奨学金専用口座
ゆうちょ銀行 01320-1-101415
「特定非営利活動法人アムダ」

フィリピン台風 30 号 (ヨランダ : Yolanda) 被災者に対する緊急医療支援



2013年最大級の勢力を持つ台風30号(ヨランダ: Yolanda)が、2013年11月8日、フィリピン南部の島々に上陸しました。この台風による被害としては、死者6,183人、行方不明者1,785人、負傷者28,626人。被災者は約1607万人、約342万世帯。家屋の被害は114万件を越えています。(フィリピン国家災害対策本部2014年1月8日発表)

この状況を受けてAMDAでは、緊急医療支援活動の実施を決定。11月10日には、第1次として日本から医療スタッフを派遣しました。現地の状況を鑑み、支援の必要性が高いことから、次いでAMDA支部にも呼びかけ、2013年12月末までに、8か国、のべ25人のスタッフを被災地に派遣し、マニラを拠点にしながら5つの島で医療支援活動を中心とした様々な活動を日本医師会、フィリピン医師会、フィリピン軍、PRRM(現地NGO)の協力を得ながら実施することができました。



高潮に襲われた町(パナイ島)

いまだ支援のニーズがあることから今後も、支援活動を継続する予定です。

第1次ミッション ボホール島 マリボホック 11/11-13

ボホール島は、10月15日に発生したマグニチュード7.1の地震で甚大な被害が発生し、震災後も余震が続いており、テントで雨風をしのぐ避難生活を送る住民が多数いる状態でした。AMDAでは、地震後の緊急支援活動を実施したことから、台風による被害が広がっていることを懸念し、最初の活動地としてボホール島での活動を開始しました。幸いなことにボホール島では、台風の直接的被害は少なかったものの、ほとんどの学校が地震や台風のため屋外での授業を余儀なくされており、ストレスを抱える子どもたちも出てきました。そこで、マリボホック市内のプレスクールと小学生たち約2,850人に対し、ノートや鉛筆、ペン、クレヨンなどの文具の配布を実施しました。



文具を受け取る子どもたち(ボホール島)

第2次ミッション ネグロス島 カティスほか 11/16

ネグロス島は、島内のほとんどの地域で、停電が続いており、物資の供給もストップしていることから物の価格も上がっていました。しかしながら、空港や港が機能していることから、さまざまな団体や政府からの支援物資が届いており、水や食料などは行きわたっている様子が見られたことから、ネグロス島への現段階での支援活動は見送り、視察にとどめました。

第3次ミッション パナイ島 カルレスほか 11/17-21

パナイ島の北東部の地域は、ネグロス島の地域よりも明らかに被害が大きくなり、停電も続いている状況がみられました。医療支援は入っておらず、体調を崩している人が多く、支援物資のニーズも高かったことから、カルレス町カピラオベキュノ地区、サンジョニッシュ町スア地区で巡回診療を行い、のべ265人の診察を行いました。上気道感染、頭痛などの痛みを訴える方や、高血圧の患者が多くみられました。またカルレス町カピラオ・グランデ地区とサンジョニッシュ町スア地区では、300世帯に対して衛生用品などの支援物資の配布を行いました。



メンタルプログラムで絵を描く子どもたち(パナイ島)

さらに、子どもたちへのメンタルプログラムとして絵を描くことを通じて、体験した恐怖などを表出させるセラピーを実施することができました。

第4次ミッション レイト島 オルモック〜タクロバン 11/17-21

レイテ島のオルモック北部カナンガ町からタクロバン近郊のモゴガ町など、移動しながらニーズの多い地域で巡回診療を実施しました。台風の影響で医療機関がほとんど機能していないことから、多くの患者が詰めかけ、受診待ちの列が途切れることはありませんでした。3か所で、のべ約460人の診療を実施。呼吸器の症状ほか外傷や皮膚疾患、下痢などが多く見られました。また特徴的なものとして、瓦礫や枯れ木類が片付けのためにあちこちで燃やされている焚き火による子供の火傷も目立ちました。またシラミが流行していました。

フィリピン台風 30 号 (ヨランダ : Yolanda) 被災者に対する緊急医療支援

第 5 次ミッション レイテ島 パランポン周辺 11/26-28

パランポン町長の要望により医療支援の必要な町内のサンピードロ地区、カンコスメ地区、カンビノイ地区で巡回医療支援活動を実施しました。上気道感染症、高血圧、下痢、不眠などの症状が多く、のべ 740 人の診療を行いました。また地元のヘルスセンターに薬の寄贈を行いました。



カンビノイ地区での巡回診療の様子 (レイテ島)

第 6 次ミッション レイテ島 タクロバン近郊 11/27

タクロバン市の中心部は支援が集中しているため、タクロバン郊外、南部の町での支援活動を実施。パロ町、ダラン町で支援物資を配布し、トロッサ町サンロケ地区は巡回診療を実施しました。202 人の受診者数のうち 77 人が子供。栄養不足を訴える人が多くいました。また、台風前に大腿部からの下肢切断を受けた女性も、台風の影響で医師不在のため抜糸が出来ず、総感染も起こしており、抜糸と創洗浄を実施しました。



巡回診療に詰めかけた人々の行列 (レイテ島)

第 7 次ミッション サマール島 ヘルナーニほか 11/28-30

タクロバン市を出発して、サマール島へ陸路で移動。沿岸部を通ってボロンガン市を目指しました。途中のサントニーニョ町、パセイ町、ヘルナーニ町、マラブ町、キナバンダン町などで、トラック 3 台分の支援物資の配布を実施しました。被災後、初めての支援という地域も多く、トラックが止まると、多くの住民が集まってきました。さらにボロンガン市では、巡回医療支援活動を実施し、約 150 人を診察しました。さらに復路でも、往路と同様に物資支援の配布を実施しました。

第 8 次ミッション レイテ島 カナンガほか 12/5-7

第 4 次ミッションで訪問した地域へのフォローアップを兼ねて、フィリピンで最大の祝日であるクリスマスに向けた物資支援を実施しました。子どもたちへは文具やお菓子、さらに地区単位で、バスケットボールとゴールを寄贈しました。



被災後の町でも子どもたちの笑顔は明るい (レイテ島)

第 9 次ミッション ボホール島 マリボホック 12/8-10

第 8 次ミッションと同様に、フォローアップを兼ねて、フィリピンで最大の祝日であるクリスマスに向けた物資支援を実施しました。マリボホック町内の 21 校の小学校にはそれぞれ、バレーボール 1 個とセパタクロのボール 1 個を、小学 6 年生以下の学童や園児には、お菓子を詰め合わせたクリスマス

プレゼントを約 3,300 人分用意し、手渡すことができました。

第 10 次ミッション パナイ島 エスタンシアほか 12/13-16

カピス町近くの集落とエスタンシア町で巡回診療を行いました。地元のボランティア医療スタッフなども参加していただき、のべ 1089 人を診察することができました。患者からは、多くの感謝の言葉が寄せられました。また食糧支援物資として、お米や缶詰などを袋詰めしたものを 270 世帯に配布しました。さらに、316 人の子どもたちへのミニクリスマスプレゼントを手渡すこともできました。



多くの患者が詰めかけた巡回診療の様子 (パナイ島)

第 11 次ミッション サマール島 バセイほか 12/21-24

レイテ島オルモック市、サマール島バセイ町、マラブット町で巡回医療支援活動を実施し、のべ 584 人を診察することができました。また訪問診療も実施することができました。さらに、重篤な外傷を負う患者をタクロバン市内の病院へ搬送し、経過についてもフォローを行っています。



活動を共にした医療チームスタッフで (サマール島)

第 12 次ミッション 12/20-24

ソーラーライト (Kopernik 寄贈) を 3 つの島で配布しました。サマール島ギボロス町ギゴサ地区では 96 個、セブ島サンタフェ市の 3 地区 (オコイ地区バリドビド地区、バリカバン地区) で 215 個、パナイ島カリノグ町バタート地区で 108 個の計 419 個を配布しました。

AMDA の医療支援活動に参加したフィリピンの看護師からのメッセージ

こんにちは。私はレイテ島とサマール島での医療支援活動に参加させていただいた看護師です。台風被害から立ち直ろうとする私たちの国の被災者のために献身的な医療保健支援を実施してくださっている AMDA に深い敬意を表します。また今回参加した支援活動や、AMDA のホームページを通じて、AMDA の提唱している「相互扶助」の理念に共感しました。今回、AMDA が私たちの国の被災者のためにしてくださったことは、私たちの心に深く刻みこまれています。近い将来必ず、今度は私たちが「相互扶助」の精神で、恩返ししたいと思います。心からの感謝をこめて…

フィリピン医師会から感謝状

フィリピン医師会から、今回の緊急医療支援活動に対して、日本医師会とAMDAに対して感謝状を頂きました。福山医師会から医師1名、看護師1名がAMDAのスタッフとして、国境を越えて緊急医療支援活動にあたった初めての例となりました。



AMDA 国際会議 in 大國家住宅

2013年12月15日、岡山県和気町にある旧大國家住宅(国指定重要文化財)を会場に「グローバル人材育成と教育を考える～AMDA 国際会議 in 大國家住宅」が開催されました。

自治体、教育機関、学生、NGOなど様々な立場の方が参加し、グローバルに活躍するこれからの人材育成在り方や学生によるボランティア活動などについての意見が交わされました。

また最後に AMSA (アジア医学生連絡協議会) と AMDA による連携協定の調印式も行われました。



参加者立ち会いの下行われた調印式の様子

モンゴル事業

モンゴル検眼技術向上セミナー開催

岡山県国際貢献ローカル・トゥ・ローカル技術移転事業として、モンゴル眼科協会協力の下、川崎医療福祉大学医療技術学部感覚矯正学科視能矯正専攻高崎裕子教授のセミナーが、昨年度に引き続きモンゴル、ウランバートル市で、子供の弱視治療と眼科健診の必要性をテーマに9月8日から13日まで開催されました。本年は、視能訓練士の守田好江先生にもご協力をいただきました。

モンゴルでは、人口の1/3が18歳以下の青少年であることから、子どもの健康と教育を考え、AMDAは2010年から検眼技術向上のセミナーを眼科医対象に毎年継続して行っています。

連日、モンゴルの眼科医師ら約30名が、治療や眼科健診について、方法



多くの眼科医師が参加した検眼セミナーの様子

論から重要性の啓発まで、討論をしながら、様々なアプローチを学びました。

また、目に異常のある子どもの検査を実際におこない、実習形式での研修もあり、大変充実したセミナーとなりました。来年度も是非行ってほしいとモンゴル眼科協会からの要望が寄せられ、今後も継続を予定しています。

魂と医療のプログラム (ASMP) モンゴル仏教総本山ガンダン寺で開催



多くの眼科医師が参加した検眼セミナーの様子

2013年9月12日、魂と医療のプログラム (ASMP: AMDA Soul & Medicine Program) がモンゴル仏教総本山であるガンダン寺で行われました。ASMPとは、戦没者と近年の自然災害犠牲者に対して、宗派、宗教を超えた

宗教者による合同慰霊祭を、そして災害被災者には医療支援を実施することを通じて、平和の追及を行う、宗教者ボランティアとAMDAの合同事業です。モンゴルでの開催は6回目となります。第1回よりご協力をいただいている宗教法人大本に加え、本年は日蓮宗がご参加くださいました。

イベント・会議開催のお知らせ

3月2日

AMDA 東日本大震災復興支援 被災地間相互交流フォーラム

被災地の仮設商店街や地域のリーダーの方が岡山で一堂に会し、復興期における協力体制や今後について考えます。

【日時】

2014年3月2日(日) 13:30～

【会場】

岡山国際交流センター 会議室1

3月23日

AMDA 東日本大震災 復興支援 第3回絆コンサート&フォーラム

高校生、大学生を中心に音楽とシンポジウムの2部構成で、被災地の復興や支援のあり方を考えます。

【日時】

2014年3月23日(日) 17:00～

【会場】

オルガホール

4月26日

フィリピン台風30号復興支援会議 ～南海トラフ地震にそなえて～

フィリピン台風30号の緊急医療支援の活動報告と今後の復興支援について、今後起こりうる南海トラフ地震を想定して考えます。

【日時】

2014年4月26日(土) 13:30～

【会場】

福山市生涯学習プラザ 中会議室

多くの方々からご寄付をいただきました。一部を紹介します。



株式会社 山田養蜂場様



岡山大学国際医療勉強会様 ILOHA



岡山市立伊予島小学校様